令和６年度学校経営計画書

大竹市立玖波中学校
校長　　小田　大介

Ⅰ　学校の状況

１　基本数等

学級数（５）　児童・生徒数（５１）〔１年 12 名，２年 17 名，３年 19 名，特支３名〕
教職員数（１２名）校長・教頭・教諭・養護教諭・事務（兼）・非常勤講師２・SC１・ALT１・スクールサポートスタッフ１・読書活動推進員１）
メールアドレス（kubachu@fch.ne.jp）
HP アドレス http://www.members.fch.ne.jp/kubachu/）

２　学校の状況及び課題

玖波地域は海と山に挟まれた水と緑の豊かな自然と歴史に恵まれており，ＪＲ玖波駅，玖波漁港，広島西医療センターなどの施設も充実している。中学校区には小学校が１校あり，多くの生徒が玖波小学校から入学してくる。玖波小学校とは「スクラム」と名付けた連携会議を定期的に開催しており，授業改善や児童と生徒の交流について協議，連携している。また，校区内には広島特別支援学校があり，昨年度から「スクラム」に加わり連携を深めている。名称も「スクラム+」と変更した。

地域は少子高齢化が進んでいるが，学校には協力的で，地域をあげて子供を育てていこうという風土がある。しかし，経済的に厳しい家庭も増え，家庭の教育力の低下が懸念される。また，市の学校選択制により，小学校入学時から施設の新しい他校に進学する児童も多く，さらに中学校進学時に部活動の選択の幅が広がる他校へ行く生徒もおり，生徒数は減少傾向にある。生徒数が少ないからこそ，一人一人の生徒に目が届き，手が届く教育を本校の特色としてアピールしていく必要がある。

このような風土で，本校の大半の生徒は健やかに育てられ，反社会的行動等の生徒指導に関わるような問題は少ない。幼少期より固定化された人間関係で育っているため，お互いの短所も含めてよく理解し合っており，どんな状況の仲間も受け入れる思いやりがある。反面，相手を思いやるあまり勝敗を避ける，些細なストレスにも大きく傷ついてしまうなど，精神的にもろい面があり，互いに刺激し合って切磋琢磨するという雰囲気は弱い。また，令和３年度，校区内に小規模な児童養護施設（ファミリーホーム）が開設され，こども家庭センターからホームに入居し，本校に転入してくる生徒がいる。

本校はこれまで「学びの変革」パイロット校事業の実践指定校の取組を継続・進化させるべく，各教科で育成すべき「思考力・判断力・表現力等」を，玖波小・中で「付けたい資質・能力」レベル表にまとめ，これを授業で活用するとともに，各教科で育成すべき力が関連する単元の絞り込み，カリキュラムマップとして視覚化を図るなどの取組を行ってきた。

令和２年度からは，人権教育の視点を取り入れ，①ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくり，②異年齢（縦割り）集団，学級力診断等を活用した集団づくり，③個が生きる環境づくりに取り組んだ。

令和４年度は，それまで「人権」の視点で取り組んだ授業づくり，集団づくり，環境づくりの各実践を継承しつつ，「知・徳・体」の基礎基本の徹底を図った。

令和５年度は，広島県教育委員会による「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」の指定を受け，生徒の学ぶ力を引き出す「個別最適な学び」の実践的な研究に取り組んだ。

「知　確かな学力」では，引き続きユニバーサルデザインの考え方を活かし，生徒一人一人が学ぶ楽しさを味わい，「わかる」「できる」を実感できる授業改善を進めるとともに，先進校を視察したり，各教科でフォローアップ生徒を位置づけたりして，「個別最適な学び」の推進に取り組んだ。

「徳　豊かな心」では，自他を思いやるための基盤として「自らへの自信」を重点課題とし，引き続き，自己有用感，自己存在感，自己肯定感の向上に取り組んだ。「自治の城」の伝統を継承した生徒会活動，小規模校の良さを活かした異学年集団の活用，他校との交流，地域の教育力を活かしたボランティア活動等の体験活動を通して，主体性，思考力，表現力を育成し，自らへの自信の向上を目指した。

「体　健やかな体」では，体力づくりとともに，心の健康づくり，レジリエンスの向上を課題とした。生徒会活動，学校行事等への取組の中で，小さな挫折を乗り越える経験を重ねることで，精神的にたくましい生徒の育成を目指した。仲間を思うあまり，勝敗を避ける風潮を払拭し，全力で勝負に挑む経験をさせ，勝利の喜びを味わわせるとともに，負けた悔しさと，それを克服する精神力を培うことをねらいとした。

また，広島県が示している，１５歳の生徒につけさせたい力「自己を認識し，自分の人生を選択し表現することができる力」を受け，全ての教育活動において自己存在感や自己有用感をもたせ，自己肯定感を高めるとともに，豊かな表現力を身に付けることを意識させた。

学力向上に関するこれまでの成果と課題は次の通りである。

【「学びの変革」パイロット校事業の検証に用いる質問事項等の肯定的評価の割合（全校生徒対象）】

質問の内容	R３	R４	R５	前年比
自分で学習の計画を立てています。	６２	７２	－	－
授業には主体的に取組んでいます。	８５	９０	100	+10
授業では，情報を，比べたり（比較），仲間分けしたり（分類），関係を見付けたり（関係付け）して，何が分かるのかを考えています。	８１	８６	９０	+４
授業では自分の考えとその理由を明らかにして，相手に分かりやすく伝えるように表現しています。	６４	８５	８５	+0

【全国学力・学習状況調査の平均正答率】

	Ｒ３		Ｒ４			Ｒ５		
	国語	数学	国語	数学	理科	国語	数学	英語
本校正答率	66.0	60.0	79.0	67.0	48.0	75.0	59.0	46.0
全国平均	64.6	57.2	69.0	51.4	49.3	69.8	51.0	45.6
全国との差	○1.4	○2.8	○10.0	○15.6	▲1.3	○5.2	○7.0	○0.4

質問紙調査の推移を見ると，Ｒ４年度はいずれの項目も向上した。学力調査の結果は，全国平均と同程度か，超えることが多くなり，令和４年度の国語，数学では 10 ポイント以上上回ることができた。令和５年度は，３教科とも上回ることができた。

また，令和５年度も，年間を通して学力の定着度を確認するために，学校評価の指標として３回の復習テストにおける地域平均との差異を見た。５教科中４教科で 0～5.6 ポイント上回っており，全体的には概ね基礎学力の定着を図ることができたと考える。しかし，定期試験における 30 点以下の生徒がとも数名おり，各教科共通して名前が挙がることも多い。各教科で，彼らをフォローアップ生徒と位置付け，個別の手立てを仕組んで取り組んだが，授業改善だけでは解決しない課題である。

令和５年度は，広島県より「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」の指定を受け，これまでのＵＤの考え方を生かした授業改善を発展させながら，特別支援教育の充実を図った。全教職員で特別支援教育の考え方を学び，新設した特別支援学級（知的）の指導の充実を通常学級の指導に活かし，個別最適な学びの実現を目指した。。

令和６年度も，広島県より「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」プロジェクト校フォローアップ事業の指定を受け，昨年度の研究を更なる推進を目指す。

豊かな心，健やかな身体に関するこれまでの成果と課題は次の通りである。

【学校評価アンケートの肯定的評価の割合（経年比較）】

質問の内容	R３	R４	R5	前年比
自分には良いところがある	71.0	73.0	81.0	+8.0
人の役に立てたと感じることがあった。	73.0	70.0	100.0	+30.0

自己肯定感は前年度比8.0ポイント増加，自己有用感は前年度比30ポイントと大幅に増加している。その要因として，成果の表彰や成果物の展示，ありがとうの木などの取組により，取り組んだ結果が目に見える形でフィードバックしているからだと考える。アンケート結果については，全体的な傾向を見るとともに，生徒個々の状況，意識の変化を把握することも重要である。小規模校ならではの良さを生かして，生徒個々の心のありようをタイムリーにキャッチし，状況に応じた指導を組織的に進める必要がある。

引き続き，全ての教育活動の中で，生徒一人一人に肯定的な評価をしていくことを基本としながら，小さな挫折を乗り越えさせる経験を経てレジリエンスを高める取組を進めて

いく。

さらに，引き続き，玖波学区３校の連携を深め，育てたい児童・生徒像を共有しながら，地域で育ち，地域や母校を誇りに思い，地域に貢献する人材の育成に取組を進める。

また，「安心・安全は何事にも優先する」という大竹市の方針に沿って，教職員一人一人の危機管理センサーの感度をあげるとともに，不祥事を他人事とせず，組織として危機意識の啓発と持続に引き続き取り組んでいかねばならない。

Ⅱ　教育目標

【校訓】　「実行の人」
【玖波小・中共通の学校教育目標】「夢を持ち，自ら夢を実現する児童・生徒の育成」
【玖波中学校の目標】　「『なりたい自分』に向かって挑戦する生徒の育成」

【学校教育目標を達成するための３つのプロジェクト】
（１）個別最適な学び推進プロジェクト
（２）玖波中ドリームプロジェクト
（３）玖波学区「あ・そ・ぼ」プロジェクト

◎めざす生徒像（トータルプランより）
・自分で課題を見つけ，自分で学び，自分で考え，協働して解決できる生徒
・自分のよさを自覚し，自他を大切にしながら，主体的に生きる生徒
・主体的に心身の健康管理ができる生徒

〇育成したい資質・能力
＜スキル＞　思考力・表現力
＜意欲・態度＞　主体性
＜価値観・倫理観＞　自らへの自信

〇生徒たちに目指してもらいたい学校の具体的な姿
・挨拶が飛び交う学校　・掃除の行く届いた学校　・地域に貢献する学校
・読書の盛んな学校　・歌声が響く学校　・発表，応募，検定に挑戦する学校

Ⅲ　経営理念（ミッション・ビジョン等）

【ミッション】本校の存在意義は「玖波中で学んでよかった，通わせてよかった，あってよかったと思える教育の創造」をすることである。
【ビジョン】　「生徒，保護者，地域が誇りに思える学校」を目指す。

〈めざす学校像〉　生徒が学びたい，保護者が通わせたい，教職員が働きたい学校(笑顔・規律・絆)
…「笑顔・元気」かがやく大竹っ子の育成のために…

◎めざす教職員像
・信頼：Confidence　　豊かな人間性と確かな専門性と授業力
（使命感と意欲をもち，信頼され，尊敬される教師）
・協働：Collaboration　　協働し組織的な職務の遂行
（職責の重さを自覚し,連携してチームとして取り組める教師）
・一貫：Consistency　　凡事徹底と率先垂範と持続一貫
（愛情をもって鍛え，優しさと厳しさの両面から生徒を伸ばす教師）
・挑戦：Challenge　　前例踏襲から改善や挑戦
（創造性と教育的愛情をもち，常に自己研鑽を図る教師）

※県教委指定
・令和５年度「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」
・令和６年度「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」フォローアップ校

Ⅳ　具体的な取組

○　知　　確かな学力

～　特別支援教育の考え方を生かした「個別最適な学び」の実現　～
・ユニバーサルデザインの考え方（焦点化・視覚化・共有化）を取り入れた，全ての生徒にわかる授業づくり
・デジタル機器の活用，家庭学習課題の改革（ＦＹノート，学習プランの活用）による個に応じた指導の促進
・授業中の発表の場の工夫，定期試験の問題開発，ヤングスポットへの投稿等を通した，思考力・判断力・表現力の育成
・３学年時，英語検定３級取得を目指す

○　徳　　豊かな心

・全教科・領域で「自己存在感を与える」「自己決定の場を与える」「共感的な人間関係を育成する」「安心・安全な風土を醸成する」（生徒指導の実践上の４視点）の具

現化を図る
・生徒会活動，縦割り集団の活用，地域でのボランティア活動，他校との交流等の体験活動を通して，自治能力を高め，主体性，社会性を育む
・自尊感情を高め，学校生活への希望を育む校内掲示物の工夫
・地域の教育力を活かした交流活動，小中連携（スクラム），ＣＳＷ，修学旅行等の機会を活用した，社会性，コミュニケーション能力の向上
・学級力向上プロジェクトの活用による学級集団づくり
・全教職員が参画する道徳科の工夫

○　体　　心身ともに健やかな身体

・ウェルビーイング
・生徒一人一人の心に届く教育相談活動の充実
・深い生徒理解に立った不登校やいじめの未然防止と対応
・特別支援教育コーディネーターによる担当者会の効果的な運営
・校内適応指導教室（ふれあいルーム）の効果的な活用（原則２～５ｈの毎日４ｈ時間割に担当を位置づける）
・保健指導，安全指導・防災教育の充実
・挫折を克服する経験（体育祭の副担任赤白分け，文化祭のコンクール化等）
・業務改善による業務の効率化，生徒と向き合う時間の確保

Ex:諸会議（企画・分掌会・担当者会等）をできる限り時間割に組み込む
・企画委員会がコンプライアンス推進委員会，いじめ防止委員会を兼ねる
・部活動の土日１日，平日１日の休養日
・長期休業中や土日の部活動は原則午前中
・試験最終日は５時間授業，１時間以内の部活動
・一斉退庁日（週１日）
・計画年休（スマイル年休）〔月一回午後年休〕
・PTA 活動の精選・会議のもち方の工夫（役員間の相談により日中に開催可能）